
無花果

こはる亭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無花果

【コード】

N8274H

【作者名】

こはる亭

【あらすじ】

無花果・・・文字の通り花が咲かない。そんな無花果の思い出。

「ねえ 誰か、これ（無花果）読める？」

「何？見せて。 ああ、これね。 ええーと果物だよ」

「いちじくだよ！」

「ええー読めないよ、何故これがいちじくなのさ！」

「無花果のデザートか、楽しみだね」

「ねえ、どうして この漢字で無花果と読むの？良く読めたね！」

「家にあるんだ・・・無花果畑がさ」

「凄いじゃん！」

「無花果なんて買うもんじゃないよ！食べたきゃ・・・」

私の家の周りには無花果畑が広がっていて、もう長い間この景色は変わっていません。

父は、祖父から無花果農家を継いで「儲からない」と言いながら無花果を大切にしている。

無花果の実は、夏の旬の果物でスーパーに何時も在る物ではない。

友達はデザートを食べて、「美味しいじゃん！可愛い色してるじゃん」と、言っていたが……

私は無花果が大嫌いだ！

梅とか桃も可愛い、梨でも、柿でも、祖父は、どうして無花果を植えたのだろう？

春が来ると、家の周りが一面、花になる光景をいつも空想していた。無花果は、字の通り 花が咲かない。冬になると、葉もなくなり枝も掃い落とされる。

これが怖い！

学校帰りの夕方にかけて、家にたどり着くまでの間 無花果の木はウネウネ、ゴツゴツしてまるで妖怪のように見えた！

小さな時から、この無花果畑を通る時はよそ見をしない！
短大生になった今でも、変わらない。

「ねえー、でもさー無花果でさー……いちじく浣腸だよね！」

「 . . . 」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8274h/>

無花果

2010年12月31日02時19分発行